

実施方法

実施期間：前期は、平成20年6月30日～7月18日、後期は、同年12月1日～12月12日。学部／学科については前期・後期とも実施、大学院については後期のみの実施とした。

本学の学部・研究科の構成

大 学	人間文化学部	英語英文学科
		人間文化学科
		生活福祉文化学科（平成19年4月 生活福祉文化学部生活福祉文化学科に改組）
		生涯発達心理学科（平成17年4月 心理学部心理学科に改組）
	生活福祉文化学部	生活福祉文化学科
	心理学部	心理学科 発達心理専攻
		学校心理専攻
臨床心理専攻		
大学院	人間文化研究科	応用英語専攻
		人間文化専攻
		生活福祉文化専攻
	心理学研究科	発達・学校心理学専攻（博士前期課程）
		臨床心理学専攻（博士前期課程）
		心理学専攻（博士後期課程）

調査対象科目：学部科目については、複数教員が担当する科目やゼミナール（特論および卒業研究）、受講者10名以下の科目は調査の対象外とした。学部／学科ごとの実施科目数の内訳は以下のとおりである。また、大学院科目については、各科目の受講者数が少ないことから、大学院の教育内容全体について調査を行うこととした。

実施科目数の内訳（学部／学科）

前 期				後 期			
	専任	非常勤	計		専任	非常勤	計
英語英文学科	44	28	72	英語英文学科	46	29	75
人間文化学科	30	6	36	人間文化学科	33	4	37
生活福祉文化学科	32	19	51	生活福祉文化学科	37	10	47
心理学科	35	7	42	心理学科	44	7	51
共通教育	32	66	98	共通教育	41	55	96
教 職	12	7	19	教 職	12	2	14
学校図書館司書教諭	1	0	1	その他の資格科目	7	5	12
計	186	133	319	計	220	112	332

当初の実施予定数	190	139	329	当初の実施予定数	233	115	348
実施できなかった科目数	4	6	10	実施できなかった科目数	13	3	16

調査対象者：全学部の学生および全研究科の大学院生。学部／学科について、履修者数と回収数、回収率を、大学院について、在籍者数と返却数、返却率を以下に示す。

履修者数と回収数、回収率（学部／学科）

前 期				後 期			
	履修者数	回収数	回収率		履修者数	回収数	回収率
英語英文学科	2,760	2,164	78.4%	英語英文学科	2,561	1,725	67.4%
人間文化学科	1,617	1,183	73.2%	人間文化学科	1,664	1,000	60.1%
生活福祉文化学科	1,743	1,418	81.4%	生活福祉文化学科	1,716	1,303	75.9%
心理学科	3,333	2,615	78.5%	心理学科	3,806	2,870	75.4%
共通教育	5,263	4,225	80.3%	共通教育	5,159	3,635	70.5%
教 職	713	596	83.6%	教 職	365	267	73.2%
学校図書館司書教諭	19	17	89.5%	その他の資格科目	474	362	76.4%
計	15,448	12,218	79.1%	計	15,745	11,162	70.9%

在籍者数、返却数、返却率（大学院）

		修 士			博士前期			博士後期			全 体		
		返却数	在籍者数	返却率	返却数	在籍者数	返却率	返却数	在籍者数	返却率	返却数	在籍者数	返却率
人間文化 研究科	応用英語専攻	5	13	38%							5	13	38%
	生活福祉文化専攻	5	16	31%							5	16	31%
	人間文化専攻	4	9	44%							4	9	44%
心理学 研究科	発達・学校心理学専攻				1	2	50%				1	2	50%
	臨床心理学専攻				4	18	22%				4	18	22%
	心理学専攻							0	3	0%	0	3	0%
合 計		14	38	37%	5	20	25%	0	3	0%	19	61	31%

調査内容：最初に、回答者の属性（学部学生については所属学部・学科・専攻や学年、大学院生については研究科・専攻や学年）を尋ね、次に当該科目（大学院については大学の教育内容全体）に関する以下の項目について尋ねた。学部、大学院、それぞれの調査項目は以下の通りである。

< 学部の当該科目に関する調査項目 >

1. 評価項目

1) この授業について

- (1) 授業のテーマははっきりしていた。
- (2) 授業の内容を理解できた。
- (3) 授業の内容に興味・関心をもてた。
- (4) この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ。
- (5) この授業では学習に集中することができた。
- (6) 授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった。
- (7) 成績評価の仕方が明確に示されていた。

2) 教員について

- (8) 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。
- (9) 教員のプレゼンテーション（板書・パワーポイント・CDプレーヤーなど）は適切であった。
- (10) 教員は学生の質問や相談に適切に対応した。
- (11) 教員の授業への取り組みに熱意や情熱を感じた。
- (12) 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた。

3) あなたについて

- (13) 私はこの授業に意欲的に（熱心な授業態度・予習／復習をするなど）取り組んだ。
- (14) 私はこの授業に満足した。
- (15) 私は講義概要（シラバス）をこの履修科目の選択に利用した。
- (16) この授業では、何回欠席しましたか。

4) 自由記述

「この授業についてよかった点や改善すべき点などを記入してください」と教示し、調査用紙に自由回答欄を設けた。

2. 回答形式

評価項目 1)、2)、3) ((16)以外) については、以下の5件法で回答させた。

- 5：強くそう思う
- 4：ややそう思う
- 3：普通
- 2：あまりそう思わない
- 1：全くそう思わない

評価項目 3) の (16) については、以下の5件法で回答させた。

- 5：0回
- 4：1回
- 3：2～3回
- 2：4～5回
- 1：6回以上

< 大学院の教育内容全体に関する調査項目 >

1. 評価項目

1) 所属する研究科の教育内容や教育環境について

- (1) 学位取得のための道筋が明確に示されている。
- (2) 提示されたカリキュラムは納得のいくものである。
- (3) 授業時間割はバランスよく配置されている。
- (4) 提供される科目の授業内容が明確に示されている。
- (5) 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている。
- (6) 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている。
- (7) オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている。
- (8) 研究科、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている。
- (9) 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている。
- (10) キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている。

2) 自由記述

「あなたが所属する研究科の教育内容全体についてよかった点や改善すべき点などを記入してください」と教示し、調査用紙に自由回答欄を設けた。

2. 回答形式

評価項目1) について、以下の5件法で回答させた。

- 5 : そう思う
- 4 : どちらかというと思う
- 3 : どちらかというと思わない
- 2 : そう思わない
- 1 : 回答できない

実施手順 :

< 学部科目について >

1. 実施用紙の受け取りと返却

専任教員については、授業評価アンケート調査用紙を企画開発調整課で受け取り、調査実施後、指定の封筒に入れて企画開発調整課に返却した。

非常勤講師については、授業評価アンケート調査用紙を教務学事課で受け取り、調査実施後、指定の封筒に入れて教務学事課に返却した。

2. 調査実施方法

各科目担当教員が授業時間内に受講生に対して調査の主旨等を説明した後、調査用紙を配布し、実施後、回収した。受講生が調査用紙に回答している際、担当教員はできるだけ教室外で待機するなどの配慮を行った。

< 大学院について >

企画開発調整課より調査の主旨等を説明した文書とともに各大学院生の自宅に送付し、記入後、企画開発調整課あてで郵送にて返却してもらった。

結果の集計 :

集計は、日本通信紙株式会社に依頼した。

教員への結果通知と集計結果の配布 :

平成21年1月27日に平成20年度授業評価アンケート結果を受けての全学教員研修会を実施した。全学および学部/学科(前期・後期)、大学院全体(後期のみ)の集計結果については、その際に全専任教員に配布した。

各科目の個人集計分については、前期は平成20年9月上旬~10月上旬に、企画開発調整課にて順次手渡して返却した。後期は上記の全学研修会の際に個別に返却した。非常勤講師については、教務学事課にて順次手渡し、一部については郵送で返却した。